

2023年(令和5年)

第60号

(11月1日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～愚痴はほどほどに～ 右京支部会計 齋藤幾子

今月は、右京支部の齋藤がお役を頂きました。よろしくお願ひします。

会長先生はご法話で一般的には天地自然のありようや過去の出来事など「言っても仕方のないことを言って嘆く」ことを「愚痴をこぼす」と言いますが「痴」という字は、物事を理解し、判断する能力の知性、それを支える知識や知恵の「知」が「疔（やまいだれ）」に囲まれています。「知」が「病（やまい）」にかかっているから「愚痴をこぼす」と教えて下さっています。私は「愚痴」の「痴」が「疔（やまいだれ）」に囲まれていると教えて頂いて、ゾッとしました。私がそこから脱出するには、どうすればいいのでしょうか。

人間には、他者のことを想像したり、思いやったりする心（仏性）がある反面、自己中心の欲望や怒りが出てくると自他を苦しめます。「わがままな心が出そうになったら、仏性を具えている私たちは仏性を磨いて発揮すればいいのです」と教えて下さいました。ものごとを多面的に考えたり、あらゆるものに生かされていることを知り、感謝の心になれば愚痴は少なくなりますと。

先日、私の横着な心のせいで主人も怒らせてしまい、すぐに謝りましたが黙ったままでした。主人も反省し

ているのだと思います。私の欠点を責めもせず大きな心と長い目で許してくれているのが分かりますので感謝しています。この原稿を書いている時に「2人で半人前やしね」と主人が笑っていました。

右京支部では教会新道場建立 30 周年の取り組みの中で、先輩たちへの感謝のお礼に行かせて頂いています。先日 4 人で元会計さんのお宅に行かせて頂き、90 歳代のご夫婦ともお元気で楽しく会話が出来たことが、とても嬉しかったです。ご夫婦が仲良く、お互いに感謝なさっているお姿を見させて頂いて、幸せな気持ちにならせて頂きました。

やるせない気持ちで吐く愚痴や弱音は心に留めていては前には進めません。吐き切ると新たな気持ちで前に進むこともあります。私自身、なかなか出し切れない人ですが、目の前の方が辛い思いを抱えておられたら、思いやりを持って相手の気持ちを聴ききり、全部出して頂いて幸せになる道を共に歩んでいきたい。そして、人生の突破口となる「智慧」を一緒にさぐる中、お互いの心の健康と元気を頂いて、明るく優しく温かく精進させて頂きます。

皆様ありがとうございました。 合掌

あなたのお仕事を教えて下さい ～乙訓支部 松井克友さん～

Q：仕事先はどちらですか。
 A：私立高等学校
 Q：どのような仕事内容ですか。
 A：地歴公民科教諭 高校 1 年生の「公共」の授業を担当しています。
 入試広報部に所属し、学校を中学生に紹介するオープンキャンパス等のイベントを企画・執行したり、広報物をつくったりする仕事をしています。
 Q：過去にはどちらにお勤めでしたか。
 A：大学卒業後、非常勤講師の時代に、学習塾の講師も務めさせて頂きました。その非常勤講師の時代を含め、今の職場に 39 年間お世話になっています。クラブ顧問は、ボランティアサークル・女子サッカー部・陸上競技部を歴任し、現在、バドミントン部の顧問をさせて頂いております。

Q：仕事中に心掛けていることがあれば教えて下さい。
 A：朝の登校指導の時、生徒と挨拶を自分から笑顔で行う。できるだけ目を見て挨拶ができるように心掛ける。通行人の方にも挨拶をする。道端のごみ拾いも一緒に行く。登校指導の道のりにあるお地藏さんにも必ず一礼をする。授業で教室に入る時、出る時、必ず一礼をする。心配な生徒には声掛けをする。お世話になったことは、次の出会いの時、生徒にも職員にもお礼の挨拶ができるようにする。そして、わかりやすい授業を…等、心がけています。
 勤め先の学校の建学の精神は報恩感謝です。仏さまの教えに触れることができる職場に 40 年近く務めさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/>